

農業



平成27年8月号
会誌 No. 1602

目次

巻頭言

3.11被災牛の今……………林 良博 3

論 壇

地域の自然生態系の修復をビジネスとして実現する……………両角 和夫 4

春期中央農事講演会

新たな食料・農業・農村基本計画について……………中嶋 康博 6

－強い農業と活力ある農村の創出を目指して－

講演…………… 6

質疑応答…………… 25

農事功績者座談会

花苗・野菜苗・稲作複合経営…………… 29

私の経営と農業への思い……………吉牟田十郎 29

現地指導者のコメント……………小川 浩樹 36

意見交換…………… 37

表彰農家訪問

西洋ナシ「ゼネラル・レクラーク」導入による

高収益果樹経営……………福元 将志 44

－泉山茂氏を青森県南部町に訪ねて－

農業・農村の現場から

高効率生産と6次産業化で実現する「攻めのイチゴ生産」……鶴山 浄真 53
- 経営の魅力を里山から発信 -

世界の農業は今

アフリカの大豆……大矢 徹治 60

私の経営と志

日本の農業をカッコよく！……鈴木 啓之 64

統計情報

平成26年農業物価指数…… 67

農政情報

大日本農会だより…… 69

編集部から…… 70

ミニ情報

「我が国の主要農産物の国別輸入割合（2013年）」…… 59

表紙写真説明

加工用キャベツの機械収穫（北海道かとうぐんしかおいちょう河東郡鹿追町）

北海道河東郡鹿追町は北海道十勝平野の北西端に位置し、コムギ、テンサイ、バレイショ、マメ類のいわゆる畑作4品を軸とした大規模畑作が展開している。また、近年は冷涼な気候を活かしたキャベツ等の野菜作も盛んに取り組まれている。

鹿追町のキャベツ生産は、平成3年より本格的にスタートし、平成12年には約120haにまで拡大した。しかし、畑作経営の規模拡大にともない作付面積は徐々に減少、平成21年にはピーク時の4分の1にまで縮小した。

JA 鹿追町ではこのような状況を見越して、早くから試験機関、農機メーカーらとキャベツ収穫機の開発に取り組むとともに、機械収穫にあわせた業務・加工用向け出荷の検討を進めてきた。平成25年以降、JA 鹿追町ではキャベツ収穫機を4台導入して機械収穫作業の受託体制を確立、さらに実需・物流と連携したコンテナ出荷などにより、生産者の労働負担を大幅に減らし、加工用キャベツの生産拡大を進めている。

（写真提供：（国研法）農研機構北海道農業研究センター 若林 勝史氏）